戦争、そして原爆の悲惨さ

南中学校　一年　熊田梨沙

第二次世界大戦中に広島に原爆が落ちたことは、小学校の歴史で学びましたが、私は今までそれは他人事だと思っていました。しかし、今回広島へ訪問したことでそれは間違いだったことに気づかされました。

最初の訪問先は原爆ドームでした。これまで、写真でしか見たことがなかったのですが、実物を見たときに、「本当にここに原爆が落ちたんだ。」と実感しました。骨組みしか残っていない屋根から原爆の怖さを感じました。次に爆心地へ行きました。そこで最初に思ったことは、「こんな普通の街に原爆を落としたんだ。」ということです。私は被爆地は何もない広い場所だと思っていました。罪のない人たちが巻き込まれてしまったことにとても悲しい気持ちになりました。その日の最後に、広島平和記念資料館へ行きました。一番印象に残った絵は、骸骨だらけの絵でした。実は

20 × 20

怖くてあまり見られませんでしたが、見た瞬間にアメリカはなんてひどいことをしたんだと思いました。

翌日、実際に原爆の被害にあわれた人の話を聞きました。その人は今九十歳で、原爆で左目を怪我して視力を失ってしまったそうです。被爆から七十四年間苦しみ続けておられ、気の毒に思いました。またその人の話では、戦争中は食料はあまり手に入らず、いつも生のニンジンや肉を食べていたそうです。戦争はみんなを苦しめるということを、改めて被害者の人の話から体感できました。

今回の広島平和体験学習を通して、広島のみんなが苦しんだことを肌で感じることができました。実際に被爆された人が減ってきていますが、私たち日本人はこの悲惨さを他の国々のみんなに教えなくてはならない、核兵器は二度と使ってはいけないということを、伝えていかなければならない、と思いました。

20 × 20